



王一だより

令和3年10月号
北区立王子第一小学校
校長 荒木 康子

教育目標 ㊦仲良く助け合う子 ㊧身体をきたえ元気な子 ㊨よく考え最後までやりぬく子 ㊩親切で礼儀正しい子

「あゆみ」で励ましを

校長 荒木 康子

めっきり、朝夕涼しくなり、半袖では肌寒さを感じる今日この頃です。

4月から半年が過ぎようとしています。10月、全ての都道府県での緊急事態宣言・まん延防止措置が解除されることになりました。ようやく「新型コロナ」という長いトンネルの先が見えてきたと信じたい思いになってきました。

子供たちはこれまで、校外学習や校内外の交流活動など、子供の成長にとって大切にしたい教育活動が制限されてきました。その中でも、子供の学びは、ずっと現在進行形です。教員もできない条件をできるように計画を変え、子供たちに価値ある学びを導くよう務めています。

その一つとして、タブレット端末の利活用も予想以上に進んでいます。実質4か月ですが、ロイロノートの利活用で、「調べる、記録する、問題を解く、画面で分類や整理をする、考えを共有する、プレゼンや動画を作成する、アンケートをとる、クイズ大会などの集会をする」など、予想以上の利活用が進められています。

教育におけるICTの整備は、ハード面、ソフト面ともにまだ発展途上にあるのが実情です。実情を捉えながら無理せず徐々に浸透・拡充を図っていきます。保護者の皆様には、お便りやアンケートのWeb配信も始めますので、引き続き、ご協力のほどお願いいたします。

さて、10月8日の1学期終業式の日、担任より子供たち一人一人に「あゆみ」をお渡しします。「あゆみ」は、一般的には、通信簿（通知表）と呼ばれているものです。子供の学びに対する今現在の評価です。今の評価は、学級内における割合で評価する相対評価ではありません。

「子供が、学ぶべき目標に対してどれだけ到達しているかを捉えて、それを次にどのように生かしていけばよいかを考える」ためのものです。つまり、「その後の学習につなげる」ことに意味をもちます。「その後の学習につなげる」とは、受け取った「あゆみ」をそのままにしないということです。ですから、「あゆみ」の各欄に書かれている日々の学習の様子に即して、お子さんを認め、励ましていただけたら幸いです。

「あゆみ」を仲立ちとして、家庭と学校が同じ歩調で「上手な励まし」をすれば、教育効果はぐんと上がります。ぜひ、お子さんを「認め、ほめ、愛情をもって伸ばす」ということにご理解いただければと思います。

2学期は、落ち着いて学習や活動に取り組むことができ、心身ともに成長できる実りの多い学期です。子供たちには、何事にもねばり強く取り組み、自分の成長を感じられるようにと願っています。

トンネルの先が見えてきたとは言え、油断は禁物です。2学期も引き続き、適切な感染症予防をして安全・安心を確保しつつ、子供の学びを保障していきます。そろそろ子供たちの学校での学びの姿を保護者の皆様に観ていただける機会をつくれそうです。後日、お知らせします。